

一般演題 7 O7-07

海洋医療即時対応研修 ICMM (Immediate Care of Marine Medicine) 受講者の ver. 2 への関心

○伊井みず穂¹⁾ 奥寺 敬²⁾ 若杉雅浩³⁾

- | |
|-----------------------|
| 1) 富山大学成人看護学 |
| 2) 中部国際医療センター 集中治療 部長 |
| 3) 富山県中央病院 救急科 部長 |

【はじめに】

海洋医療即時対応研修 ICMM (Immediate Care on Marine Medicine)¹⁾ は、日本臨床高気圧酸素・潜水学会が開発した研修であり、幅広い職種を対象とし、医療者に必要な基本知識の理解や、応急手当の実施が可能になることを目的としている。国際標準の新たな目次建で再構築した ICMM ver. 2 開催に向け、現在 ver. 1.5 でのコース開催を行っている。そこで今回、ver. 2 に含まれるモジュールに対する ver. 1.5 参加者の関心度について報告する。

【方法】

2022～2023年に開催した ICMM ver. 1.5 への参加者を対象に、質問紙を使用し ver. 2 の各モジュールに対し受講したい項目へ回答を求めた。質問紙への回答は匿名であり、個人を特定されることは無く、分析への使用に拒否があった回答は省くものとした。

【結果】

153名のうち、分析利用に拒否の無かった144名(94.1%)を対象とした。職種は看護師26名(18.2%)、医師24名(16.7%)、救命救急士24名(16.7%)、ダイビングインストラクター19名(13.2%)、ほか23職種と多職種からの回答を得た。ver. 2への関心は134名(93.1%)であり、関心が高かったモジュール順は、溺水88名(61.1%)、高気圧酸素医療78名(54.2%)、海洋における安全確保74名(51.4%)、海洋医学63名(43.8%)、非毒性海洋生物による外傷61名(42.4%)、海洋由来食品アレルギー55名(38.2%)、海洋由来食品の毒物(食中毒含む)52名(36.1%)、脊椎海洋生物による毒性50名(34.7%)、無脊椎海洋生物による毒性49名(34.0%)、海洋皮膚障害(海洋細菌)48名(33.3%)、BLSとAED29名(20.1%)であった。自由意見内には現場や病院前での対応に関する内容を求める意見を複数認めた。

【まとめ】

ICMMの学習効果評価では海洋医療についての学習のきっかけとなり、さらに今後継続学習を促すのに有用であることが示されている²⁾。ICMM ver. 1.5への参加の ver. 2への関心度は高く、モジュールごとでは現行のコースに追加されるモジュールに対する関心が高かった。多くの職種

が同時に受講しており、職種により関心のあるモジュールが異なっており、共通部分に加え、各職種に合わせた選択受講制のオプションコースを同時に実施することで、海洋医療即時対応研修としてさらに充実させることができると考える。

参考文献

- 1) 奥寺 敬：海洋医療即時対応 ICMM (Immediate Care on Marine Medicine) ガイドブック. 日本臨床高気圧酸素・潜水医学会 2018; 15(Supple) : 1-167.
- 2) 伊井みず穂：海洋医療即時対応 ICMM 研修の学習効果評価と今後の展望. 日本臨床高気圧酸素・潜水医学会雑誌 2020; 17(1) : 7-12.